

ガーナの子供達の権利とは

射水市立大門中学校 三年 中谷 実郁

私は、授業でガーナの子供達の話を読みました。それは、子供達が学校にも通わず、重労働をしているというものでした。さらに、ガーナの国について調べてみると、カカオ豆の生産が世界二位で、金と並ぶ主な輸出品であり、モノカルチャー経済の国だと分かりました。その原因は、イギリスの植民地だった時代に、プランテーションという大規模な農園が作られたからです。このような悲惨な歴史が、今のガーナの経済状況をつくっていると思います。モノカルチャー経済の問題点は一つのものに頼りすぎ、それがなくなった時や、価格の変動です。日本

が輸入する八割がガーナ産のもので、ガーナという国を大切に、守っていく必要があります。

話の中で、私は驚いたことがありました。それは、ガーナの子供達はチョコレートを知らず、そしてそれを食べたことがないということです。家族のためにがむしやらに働いているだけで、カカオ豆が何のために作られているか、知らないのです。そして、日本人の私達は、その事実を知らずに普通にチョコレートを食べているのです。私は、日本人として、怒りがこみ上げてきました。しかも、チョコレートは安い値段で売られるため、暮らすために十分な儲けがありません。もし、日本人の子供達に、ガーナの子供達の現状を伝えたと、「学校に行かずに済むなんていいな」と答える人がいると思います。しかし、その考えは間違っています。日本人の子供は、今の幸せが当たり前前で、気付いていないのです。世界には、学校に行きたくても行けない子供もいます。小・中学校は義務教育で、働くのは親で、食料もある日本。同じ世界で、同じ年齢で、このような苦しい生活をしている子供達を知り、胸が痛くなりました。

それでは、自分にできることはないか。と、考えました。すると「フェアトレード」という仕組みがあることを知りました。それは、発展途上国で作られた

製品や作物を、適切な価格で取り引きすることによって、生産者の生活の向上を助ける貿易のことです。これがもつと日本に普及し、ガーナの子供達の辛い現実を知ってほしいです。そうすれば、生活が少しでも豊かになります。私も、この事実を知って、お店のレジの横にある募金箱を見て、関係ないと思っていたけれど、募金をすることができました。だから、まずは知ることから始めてみるべきだと思いました。

チョコレートは、カカオ豆と水と砂糖とアフリカの子供達の汗と涙で出来ていると、よく言います。私達は、アフリカの子供達にチョコレートを食べさせてもらっているという考えを持つべきです。日本は、アフリカに協力し、子供達の楽しく生活する権利を、決して奪ってはけません。気持ちを行動に移すことは勇気のあることですが、それで子供達の生活が楽になるのならば、私は、まずは小さなことから、始めていきます。